

[狛江市] 学校運営協議会：議事録

会議の名称	令和7年度第3回三中ゾーン学校運営協議会
開催日時	令和8年2月27日(金) 17時00分～18時40分
開催場所	狛江市立和泉小学校 多目的スペース
出席者氏名	白井 誠 森 勇貴 羽曾部 陽 小野 良平 山口 あずさ 峯岸 政夫 片柳 久美子 繁平 光伯 細野 誠治 毛塚 敬進 恒松 克治 丸島 寛範 鷺見 真太郎 岩瀬 敏郎 淋 慎一郎 設楽 知
欠席者氏名	大久保 慶吾 毛塚 明善
傍聴者	0名
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和8年度の計画（学校運営基本方針・経営計画）の承認 2. (1)より良い学校にするために（和泉小児童・三中生徒アンケートをもとに） (2)学校評価について報告と協議 3. 学運協と学校が協働し、地域の力を生かした児童・生徒の健全育成の方策 4. 令和7年度のこれまでの活動（学運協及び地域と連携した取組） 5. 令和8年度予算の承認
協議要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和8年度の計画（学校運営基本方針・経営計画）の承認 和泉小と狛江三中の学校経営計画を承認した。以下は各校説明概要。 ◇和泉小学校 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果からキーワードを抽出した。 ・子どもたちが夢中になる様々な体験活動を通し、主体性を高めることができた。 ・教職員、保護者、地域との協働が素地にある。 ・来年度は学運協の皆様にも子どもたちの声を届けながらやっていく。 ◇狛江第三中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさや仲間のよさを肯定的に認めることで、主体性が育っていくと考えている。 ・学校のスローガンは「三中は優しさでできている」。 ・子どもたちの声にしっかり耳を傾けながら教育活動を行っている。 ・個別最適な学びを重視し、子どもたちが喜びを感じる授業を目指す。 ・エネルギーを発散する場面の設定や子どもたちが参画する行事づくりに努める。 2. (1)より良い学校にするために (和泉小児童・三中生徒アンケートをもとに) <ul style="list-style-type: none"> ◇和泉小学校 <ul style="list-style-type: none"> ・毎日が楽しい、笑顔があふれている、授業が楽しい、いじめがない、自分たちがやりたいことができる等、よい評価が多かった。 ・異学年交流やみんなの居場所を増やす、遊具を増やす等の要望あり。 ・先生たちには、楽しい授業、話を聞いてもらうこと、自分たちの活動の応援、見守りやサポートを期待している。 ・地域の方には、みんなの安全を守ってほしい、和泉小を好きになってほしいと願っている。 ・家族には、相談に乗ってほしい、学校の話など聞いてほしい、自分たちでやることをサポートしてほしい、という思いがある。 ◇狛江三中

- ・主役は生徒自身。伝統が根として大地に張っていて、その上で幹を強くする。自分たちで考えるルール作りへ（合意形成）。
- ・さらに新しい枝づくり。学校というOSをアップデートするために、インフラ整備や子どもたちのクリエイティブな活動を進めたい。
- ・自分たちの手で創り上げる学校へ。誇れる三中を目指す。

(2) 学校評価について報告と協議

◇和泉小

- ・主体性を高める研修や安心安全な学校に高い評価をいただいた。
- ・児童運営委員会の子どもたちの活動が、よい印象を与えている。
- ・外国語の教育は、保護者より児童の評価が高い。
- ・畑で野菜を育てる取組は、食に対する意識を高めている。
- ・チーム担任制を来年度進めていく。

◇狛江三中

- ・子どもたちは学校に自分たちの居場所があると考えている。
- ・不安や悩みの相談について、一人で悩んでいると生徒が少なからずいるという問題が見えてきている。
- ・生徒たちは、中学校に入学すると勉強が難しく感じている。
- ・中学生の勉強習慣についてはスモールステップを推奨していく。
- ・情報共有の方法は、保護者や生徒に合ったアップデートをしていく。

3. 学運協と学校が協働し、地域の力を生かした児童・生徒の健全育成の方策

学運協と学校が協力してよりよい教育環境を整えるために、グループに分かれて次の4点について話し合った。

- ① 現在のゾーン運営で描く育てたい子ども像
- ② 未来に引き継ぎたい学校ゾーンの強み
- ③ 現在取り組む中で追加が必要な資源・環境
- ④ 外部から得たキーワードや教育プログラムなどを狛江に取り入れる際の留意点

◇各グループからの意見

- ・和泉小と三中と一緒にやっている雰囲気が続けたい。
- ・新しい人材を巻き込む点でこの地域は弱い。地元の人のつながりが強すぎて、新しい風が入りづらい環境なのかもしれない。
- ・学運協の委員に若い人も増やしていけるとよい。
- ・子どもたちを前面に出して、大人は裏方にまわる、得意分野を生かしてイベントを企画してもらおう等、発想を変えていく。
- ・中学校の先生が小学校で授業をするなどの交流も効果的である。

4. 令和7年度のこれまでの活動（学運協及び地域と連携した取組）

学運協の委員の皆さんへのアンケート結果より、次のような意見が出された。

- ・小学校と中学校が1校ずつの関係は三中ゾーンの強みで、中一ギャップが解消される。
- ・様々な行事に先輩も参加して、みんなで創り上げる形となっている。
- ・今後、若い世代やおやじの会などの参入が必要である。
- ・不登校傾向の生徒の対応として、環境整備をやっていく必要がある。
- ・さらなる強固な関係を築き、次の世代に渡していく必要性がある。

5. 令和8年度予算の承認

令和8年度予算について説明し、承認された。

